

政策の現場から最前線を伝える情報誌

公共空間

2022
Vol.20

[テーマ] 〈地方〉の現在:地方×○○

特集記事

01 挑戦の島・海士町で考える

株式会社「風と土と」
代表取締役：阿部 裕志氏
取締役：長島 威年氏

08 観光で地域住民を豊かにするまちづくり

京都府伊根町長 吉本 秀樹氏

23 広島県のデジタル化

—ひろしまサンドボックスとは
広島県イノベーション推進チーム 尾上 正幸氏

29 大阪市の博物館行政

—博物館の地方独立行政法人化
大阪市役所 桑原 直人氏

取材レポート

13 加速する地銀再編の波

—アフターコロナで求められる地銀の役割
金融庁

教員インタビュー

34 公共政策大学院 建林 正彦 教授

39 公共政策大学院 奈良岡 聰智 教授

特別企画①

17 〈教員×学生〉座談会

テーマ：公共政策とは？

特別企画②

45 学生へのアンケート



京都大学公共政策大学院
School of Government, Kyoto University

みなさまこんにちは。『公共空間』編集委員会です。

今回のテーマは「地方」です。「地方創生」という言葉が広く知られるようになってからしばらく経ちました。「地方創生」が現在どのような展開を見せているのか。マクロにとらえるだけでなく、ミクロな視点から見直してみることが多義的な「地方創生」を理解する上で重要だと思います。そこで今回は、教育や金融、デジタルなど様々な分野の方々に取材をしてきました。また、今回は『公共空間』初の取り組みとして、教員×学生の座談会も行いましたので、ぜひお楽しみいただければ幸いです！

◎編集後記◎

梅本周晟（公共2年）

昨年に引き続きコロナ禍での取材・編集となりましたが、無事に発刊できてうれしいです。今年度は座談会やアンケートなど新しい企画を行いました。これまでの『公共空間』とは一味違ったものとなっておりますので、ぜひたくさんの方々に読んでいただけると幸いです。

小林彩葉（公共2年）

2021年度分も引き続き発刊でき、幸いに存じます。ご協力いただいた皆様には、心より感謝申し上げます。

齋藤瑞生（公共2年）

取材から編集まで自分たちで担うのは大変な作業でしたが、とても貴重な経験になりました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

神代凌（公共1年）

初めて雑誌の発刊に関わり、今は大きな達成感を感じております。取材に応じてくださった方々、企画に参加してくださった公共政策大学院生の皆様、本当にありがとうございました。

山口真希（公共2年）

気になっていたテーマを自分で取材・編集できたことは非常に面白く充実した経験となりました。雑誌作成に関わってくださった全ての方に感謝申し上げます。

『公共空間』二〇二二年（通巻第二〇号）

発行人 『公共空間』編集委員会

編集長 梅本周晟

編集委員 小林彩葉

齋藤瑞生

神代凌

山口真希

編集顧問 建林正彦

編集協力 公共政策大学院掛

京都大学公共政策大学院

『公共空間』編集委員会

〒606-8501

京都市左京区吉田本町

京都大学法学研究科公共政策大学院掛

「京都大学学術情報リポジトリ 紅」

[https://repository.kulib.kyoto-u.](https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/)

[ac.jp/dspace/](https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/) にも掲載

学生投稿募集中

毎号、学生からの投稿を掲載しています。
公共政策に関するものであれば、テーマは自由
です。

字数と形式

3500～5000字とします。
授業で作成したレポートやプレゼンテーションでも
構いません（ただし、文章形式でお願いします。）

応募要件

京都大学公共政策大学院に在学中の大学院
生であること。

応募方法

各号ごとに締め切りを設定します。編集委員
にご相談ください。

その他

応募多数の場合、編集委員会による協議の上、
執筆者やテーマの決定をさせていただきます。

お願い

本誌掲載の記事・写真・イラスト等の無断転載
や二次利用はお控えいただきたくご了承下さい。

